



(Japan Skipjack tuna Society)

令和 2 年 度

通 常 総 会 議 案 書

*と き 令和2年8月26日(水) 13時00分～

*ところ Microsoft Teams によるオンライン会議

日本カツオ学会事務局

〒780-8073

高知市朝倉本町2丁目17-47 高知大学次世代地域創造センター内

TEL : 088-844-8734 FAX : 088-844-8556

E-mail : katsuo@kochi-u.ac.jp <http://www.katsuo-gakkai.jp>



(Japan Skipjack tuna Society)

通 常 総 会 次 第

1. 開 会

2. 会 長 挨 拶

3. 議 長 選 出

4. 議事録署名人指名

5. 議 事

第 1 号議案 令和元年度事業報告について・・・・・・・・ P. 1

第 2 号議案 令和元年度収支決算報告について・・・・・・・・ P. 4

第 3 号議案 令和 2 年度事業計画(案)について・・・・・・・・ P. 6

第 4 号議案 令和 2 年度収支予算(案)について・・・・・・・・ P. 8

第 5 号議案 その他

6. 閉 会



(Japan Skipjack tuna Society)

第1号議案

令和元年度事業報告

1. 概況報告

日本カツオ学会は、カツオに興味や関心を持つ、あらゆる人々が集い、各種の情報交換をはじめ、相互の交流と連携をもとに、調査研究を継続して行う機会、協働の図れる場づくりを目指して、産学官からなる発起人のもとに平成23年1月8日 高知県黒潮町で誕生した。

本学会は、会費収入を主たる財源としていることから、その後、徐々に発起人や関係自治体などを中心として、会員確保の活動を開始するとともに、カツオに関係する企業群にも本学会への参画について声掛けを進めて行った。

この結果、現状では(令和2年3月末)、個人会員134名、団体会員35団体、賛助会員7団体の会員登録を得るまでになっている。

「会報誌」の発行については、9月に1回発行を行った。

2. 令和元年度 カツオセミナー

令和元年6月29日(土)、東京海洋大学越中島キャンパスを会場に、「令和元年度 カツオセミナー～かつお節の食文化的・文化的価値を考える～」を開催した。大学教員、水産関係者、食品産業従事者等、約100名の参加者が集まり、様々な情報交換の場となった。

<プログラム>

基調講演 13:35~14:15

「カツオとかつお節 “その食文化から食文化的価値まで”」

荻野目 望 株式会社 にんべん 研究開発部

特別講演 14:15~14:55

「鰹節屋の役割と生活」

竹内 太一 有限会社竹内商店 専務取締役

一般講演 15:10~15:55

座長：久塚 智明 (株)FBT プランニング代表取締役、日本カツオ学会副会長

「酵素比色法によるヒスタミンの簡易検査」

及川 貴史 キッコーマンバイオケミファ株式会社

「持続可能な豊かな海からみる健全な鰹節産業」

瀬崎 秀信 枕崎水産加工業協同組合 専務理事

「高知カツオ県民会議の活動 part II」

受田 浩之、市川 幸 高知カツオ県民会議



(Japan Skipjack tuna Society)

総合討論 16:00～17:20

「かつお節の食品的・文化的価値を考える」

泥谷 光信 土佐清水市長

永松 真依 かつおちゃん かつお食堂店主

荻野目 望 株式会社にんべん 研究開発部

竹内 太一 有限会社竹内商店 専務取締役

司会：受田 浩之 高知大学理事、日本カツオ学会 副会長

閉会挨拶 17:20～17:25

大西 勝也 黒潮町長、日本カツオ学会 副会長

3. 令和元年度 カツオフォーラム

令和2年1月25日(土)、志摩市文化会館(三重県)を会場に、「令和元年度カツオフォーラムin志摩」を三重県志摩市の協力を得て開催した。「カツオ食文化の持続的な発展を目指して」をテーマに、研究者や地元の漁業関係者、役場関係者など約100名が参加し、盛会裏に開催できた。

<プログラム>

①基調講演1 13:50～14:20

「7つの「ぎょしょく」で問い直すカツオの魅力」

(愛媛大学副学長・南予水産研究センター教授、日本カツオ学会顧問 若林良和 氏)

②基調講演2 14:20～14:50

「かつお節だしの嗜好性と健康効果」

(元(公財)味の素食の文化センター専務理事、県立なら食と農の魅力創造国際大学校フードクリエイティブ学科長 河野一世 氏)

③基調講演3 14:50～15:20

「心身を豊かにする魚介藻類の価値の繋がり」

(医食農連携プラットフォーム 副会長 横田光正 氏)、(医食農連携プラットフォーム 鮮度保持技術部会長、株式会社前川総合研究所 代表取締役社長 篠崎 聡 氏)

④特別発表 15:20～15:50

「カツオを使った商品開発～ボニータの取り組み」

(三重県立水産高等学校商品開発プロジェクトチーム ボニータのみなさん)

⑤パネルディスカッション 15:50～16:35

「黒潮の恵みであるカツオ食文化の持続的な発展に必要なことは何か」

4. 役員会

臨時役員会を令和2年3月2日付けメール会議にて開催し、令和2年度暫定予算について協議した。



(Japan Skipjack tuna Society)

令和元年度通常役員会は、令和2年8月3日付けメール会議にて開催。

協議事項としては、

- ① 令和元年度事業報告について
- ② 令和元年度収支決算報告（見込み）について
- ③ 令和2年度事業計画(案)について
- ④ 令和2年度収支予算(案)について
- ⑤ その他

以上を協議し、通常総会へ諮ることとした。

5. 会報誌の発行

「会報誌」の発行は、本学会を広く広報するとともに会員確保の一助とするために、当初より計画して検討してきた。

9月の1回の発行となった。

なお、会報誌の概要は次のとおりである。

日本カツオ学会会報（第9巻・第1号）の概要・・・9月発行

- ① 日本カツオ学会の活動方針
- ② 日本カツオ学会令和元年度通常総会開催報告
- ③ 令和元年度カツオセミナーin 東京海洋大学開催報告
- ④ カツオの広場～カツオに関する情報発信～

6. 共催・後援等

「第9回枕崎カツオマイスター検定」を計画している枕崎カツオマイスター検定推進協議会(会長：枕崎市長)から要請があり昨年に引き続き、共催した。

認定試験：令和元年11月16日（土）・17日（日）

【収入の部】

単位：円

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 会費	555,000	611,000	56,000	
個人会員	75,000	111,000	36,000	37件 × 3,000円 = 111,000円
団体会員	240,000	290,000	50,000	29件 × 10,000円 = 290,000円
賛助会員	240,000	210,000	△ 30,000	4件 × 30,000円 = 210,000円 1件 × 90,000円
2. 雑入	3	79,202	79,199	
雑入	3	79,202	79,199	預金利息2円、カツオセミナー交流会残金30,200円、郵便局から振替分47,000円、高知銀行振込
3. 繰越金	91,080	91,080	0	
前年度繰越金	91,080	91,080	0	前年度繰越し金 91,080円
合計	646,083	781,282	135,199	

【支出の部】

費目	予算額	決算額	増減(△)額	説明
1. 事業費	398,200	441,778	43,578	
総会費	20,000	0	△ 20,000	0円
カツオセミナー費	100,000	120,398	20,398	日本カツオ学会 令和元年度カツオセミナー運営費 120,398円
カツオシンポジウム費	200,000	263,180	63,180	カツオフォーラムin志摩 現地実行委員会補助金等 263,180円
広報費	58,200	58,200	0	学会HP年間ランニング費用 58,200円
会報費	20,000	0	△ 20,000	
2. 事務局費	78,000	29,268	△ 48,732	
事務経費	78,000	29,268	△ 48,732	振込手数料 4,580円 郵便料等立替分 24,688円
3. 予備費	169,883	0	△ 169,883	
予備費	169,883	0	△ 169,883	
合計	646,083	471,046	△ 175,037	

歳入歳出決算

【収入】

781,282 円

-

【支出】

471,046 円

=

310,236 円

を翌年度へ繰り越す。

監 査 報 告 書


平成31年度日本カツオ学会の会計監査の結果を下記のとおり報告いたします。


1 監査年月日 令和 2 年 6 月 14 日

2 監査結果

平成31年度 日本カツオ学会の収支決算について監査したところ、会計諸帳簿・証票書類等、いずれも正確にかつ適正に処理され不都合な点を発見せず、正当なものと認めたので報告します。

令和 2 年 6 月 15 日

監事 増崎 勝敏 

監事 和泉 政彦 



令和2年度事業計画(案)

日本カツオ学会は、平成23年1月8日の発足以来、9年目を迎え、カツオフォーラム、カツオセミナーを開催し、カツオ学会関係者並びにカツオ産業関係者の皆様が本学会活動を通じて、カツオの資源・経済・社会・文化など多様な価値を問い直すことを念頭に、各種事業展開を行ってきた。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルスの蔓延と全国緊急事態宣言などにより、例年通りの各種事業実施は困難と言わざるを得ない。かかる現状を鑑み、令和2年度の事業計画を以下のように策定する。

1. 日本カツオ学会10年史の作成

日本カツオ学会はこの10年、カツオ産業の盛んな全国各地の産・学・官の関係者、及び、カツオに興味のある人々との情報や意見交換を通して、将来にわたり、カツオに関する多面的な事業を推進することを目的に活動を推進してきた。これまでの情報の蓄積と交流の広がりをつまみ、これからのカツオに関する議論の発展と、日本人のカツオとの「上手な付き合い方」を探るため、これまでの学会の歩みを振り返る「10年史」を作成する。

これまで日本カツオ学会が関係してきた自治体や企業など、カツオに関係する様々な人々や地域に対して、感謝の念を伝えると共にこれからの活動に対するご協力を得る。

2. 会員の確保

地域・領域・学問・立場など様々なレベルを超えて、つむぎ合うために、全国のカツオに興味や関心を持つ多くの人に参加を呼び掛け、学会の発展を目指す。

また、年度の切り替え時期には、最も多い個人会員の人事異動などを考慮して、関係機関においては、会員の維持・確保に向けた対応を積極的に行っていく。

3. 恒常的事業

(1) 日本カツオ学会ホームページの充実

平成23年9月に立ち上げた本学会のホームページの充実を図るとともに、会員相互の情報交換の場として活用、展開していく。

また、会員相互の情報交換に加えて、社会に発信すべきカツオの価値の再



(Japan skipjack tuna Society)

認識に繋がる活動や情報等、本学会が協力する他機関の活動も含めて学会ホームページを活用した発信を適宜行う。

(2) 役員会及び企画委員会と編集委員会の開催

必要に応じて、臨時役員会や両委員会の開催を行う。特に、企画委員会と編集委員会にあっては、メール会議等を活用して各委員に周知を図りながら、意見集約を行い、より多くの意見が結果に反映できるように対応していく。

収入の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説明
1. 会費	555,000	611,000	56,000	
個人会員	75,000	111,000	36,000	37人 × 3,000円 = 111,000円
団体会員	240,000	290,000	50,000	29団体 × 10,000円 = 290,000円
賛助会員	240,000	210,000	△ 30,000	7口 × 30,000円 = 210,000円
2. 雑入	3	2	△ 1	
雑入	3	2	△ 1	預金、金利(令和元年度利息実績額)
3. 繰越金	91,080	310,236	219,156	
前年度繰越金	91,080	310,236	219,156	
合計	646,083	921,238	275,155	

支出の部

単位:円

費目	前年予算額	予算額	増減額	説明
1. 事業費	398,200	598,300	200,100	
総会費	20,000	20,000	0	令和2年8月26日開催予定
カツオセミナー費	100,000	0	△ 100,000	開催見合わせ
カツオシンポジウム費	200,000	0	△ 200,000	開催見合わせ
学会史作成費	0	500,000	500,000	学会の歩みを振り返る「10年史」の作成
広報費	58,200	58,300	100	HP維持費 58,300円
会報費	20,000	20,000	0	会報誌発行(10,000円×2回)
2. 事務局経費	78,000	78,000	0	
事務経費	78,000	78,000	0	通信運搬費 20,000円 監事旅費(1人分) 13,000円 土佐清水～黒潮町(1泊2日)13,000円 消耗品等 45,000円
3. 予備費	169,883	244,938	75,055	
予備費	169,883	244,938	75,055	
合計	646,083	921,238	275,155	